集中治療室の倫理的風土における看護師の道徳的苦悩と対処行動に関する混合研究

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2023-06-03
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 山内, 英樹
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003387

論文内容の要約

学生番号	3217006	指導教員確認		主　査	佐藤　まゆみ　教授
氏　　名	山内　英樹			副　査	水野　恵理子　教授
				副　査	上野　恭子　客員教授

学位論文名	集中治療室の倫理的風土における看護師の道徳的苦悩と対処行動に関する混合研究
訳タイトル	Nurses' Moral Distress and Coping Behaviors in The Ethical Climate of Intensive Care Units：A Mixed-Methods Study
共著者	

論文内容の要約（1,000 字～1,500 字）

【目的】

集中治療室（以下、ICU）は、看護師の道徳的苦悩、すなわち看護師が必要と思っても制度的な制約のために、実行することができない時に看護師個人が抱く苦痛な感情、が生じやすい。本研究では、1. ICU 看護師の道徳的苦悩の実態、2. ICU 看護師の道徳的苦悩と倫理的風土によるサポート体制の関連、そして 3. ICU 看護師の道徳的苦悩への対処行動の特徴を明らかにし、彼らのこのストレスを減じる方略の方向性を提言することを目的とした。

【方法】

混合研究法の順次説明的デザインとし、量的、質的段階で実施した。量的研究は、Web アンケート調査であり、日本集中治療医学会に登録されている 54 カ所の専門研修施設である ICU に勤務する看護師 168 名を対象とした。質問紙は、道徳的苦悩尺度日本語改訂版（JMDS-R）と、倫理的風土測定尺度日本語改訂版(J-HECS)を用いて、統計解析をおこなった。次に量的データの分析結果を裏付け、看護師の対処行動を調査するために修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ法を参考に 11 名の看護師にインタビュー調査を行い、量と質研究結果を統合してストレスコーピング理論を基盤に考察を行った。

【結果/考察】

JMDS-R 得点の統計解析では、ICU 看護師の道徳的苦悩の下位概念「尊厳の欠如」と「質担保が困難な協働」において、中程度の苦悩が明らかとなった。特に項目得点から回復見込みが薄く人工呼吸器で生かされている患者や延命処置を続ける患者家族の要望に従うときに苦悩が高くなっていた。

道徳的苦悩と基本属性の関係では、年齢、看護師経験年数、集中治療室経験年数、専門／認定の専門資格の有無において有意な差を認めた($p<0.05$)。道徳的苦悩は、年齢や経験年数が増すことや専門看護師等の資格取得がその増加に影響していた。さらにサポート体制の程度としての倫理的風土との関連では、質担保が困難な協働をせざるを得ない道徳的苦悩は、明確な病院理念による組織支援が得られることで弱い負の相関(-.33)が明らかとなった。

質的研究結果では、看護師自らの看護観と〈病院の方針によるしばり〉〈他者の不道徳な行為の黙認〉〈医師の指示に従わざるを得ない〉状況が〈湧き上がる怒りや不満〉〈医療へのあきらめや失望〉などの苦痛感情と関連し、≪苛まれる心残りなケア≫を感じていた。このストーリーは、JMDS-R の下位概念、「尊厳の欠如」、「質担保が困難な協働」、「非倫理的な行為の黙認」を具体的に説明できるものであった。

道徳的苦悩に対する看護師の対処行動には 3 つの方法があり、現状に馴染んでいく【波風立てない看護師】、前向きな気持ちをもって取り組む【ICU に踏みとどまる】こと、そして離職意思を抱く【ICU から離れていく気持ち】であった。【波風立てない看護師】と【ICU に踏みとどまる】看護師には病院理念の見直しや改善案の強化が有効であると考えられた。【ICU から離れていく気持ち】を持つ看護師に対しては、多角的な視点で状況を解明することが必要であろう。

【結論】

本研究において、わが国の ICU 看護師の道徳的苦悩の状態と病院内のサポート体制の関連を明らかにすることができた。彼らの道徳的苦悩に対する支援方略として、病院組織の理念内容の見直しとその具現性が重要となるであろう。